

コメントの追加 [na1]: 誰と誰が話をしているのかわからず、読者についてはいけなくなってしまいます。一文目または「は？ 誰に？」の後にキャラクターの状況描写を入れたいです。そうでないと、堀内と青葉どちらが告白されたかわからないからです。

コメントの追加 [na3]: 告白を受けた側なので「返事」の方が適切です。

コメントの追加 [na4]: なんの大会なのか地の文で補足があると尚良いです。

コメントの追加 [na2]: 青葉が女性であることをはっきりさせる描写がほしいです。赤川の簡単な説明とともに、青葉の彼女に対する認識や感情を入れ込むと、自然と表現できると思います。

基礎編課題⑦

【名前：】

会話を中心にしつつ、キャラクターの魅力や状況が示せる800文字程度の文章を書きましよう。

シチュエーション「学校からの帰り道、二人の学生が歩きながら話す」

「ねえ、オレ告られた」

「は？ 誰に？」

「三組の赤川。ほら髪の毛、染めてるヤツ」

「ふーん」

橙色の夕焼けが横断歩道を彩る。信号が赤になると堀内と青葉は足を止めた。

「……で？ どうだったの」

青葉が訊く。あたかも何でもない風に。すると堀内は首を傾げた。

「どう、って？」

「だから……、結果」

「ああ」

車が走り出し、青葉のセミロングの髪が風で揺れる。赤、青、黒、白と、様々な車を目で追っていた堀内は口を開いた。

「断った。オレ大会あるから」

フツ、と心に息が吹きかかった感覚がして、青葉は思わず胸に手を当てる。早まっていた鼓動が落ち着いていくのが分かった。

「……そう」

「うん。で、何でそんなこと訊いたん？」

「べ、別にいいじゃん。ただの興味だし」

青葉はそっぽを向いて視線を逸らす。顔を覗かれそうになったのは危なかった。

「……ふーん」

すると途端に興味を無くしたのか、堀内はそれ以上にも訊いてこない。また道路を走る車を目で追いかけ始めた。

詮索されなかったのは良かったが、諦めが少し早いんじゃないか。青葉はそう思い、視線を戻そうとした時だった。

コメントの追加 [na5]: 青葉の恋心がさりげなく表現
されていて良いです。

「あ、そうだ」

不意に何かを思い出したのか、堀内は右に下げていた鞆の中を漁り始めた。堀内と視線が合いそうになり、慌てて青葉は正面を向いた。

堀内は一枚のチケットを出すと、青葉に差し出した。

「ん」

「……なに、コレ」

「オレが出る大会のチケット。渡すの忘れてた」

そう言うと堀内は青葉にチケットを持たせる。ふーん、と青葉はチケット眺めるが、あることに気づいた。

「え？ でも大会って関係者以外は観覧できないんじゃない？」

「うん。だからオレが個人で取った」

「私のために？」

「うん」

暫しの間が空く。そして信号が青になった。

「お、青だな」

堀内はさっさと先を行くが、青葉だけはその場に固まってしまった。

堀内が自分の為だけに、有料のチケットを取ってくれた。これは一体どういうことなのか。友人としてなのか、それとももっと特別な……。

そう考えるだけで頬が赤くなる。友人だ。友人としてだと思いたい。

けれど、そうじゃないと思う自分がいるのも確かだった。

「ああ、もう！」

青葉は髪を掻きむしり、堀内の後を追いかけた。